

本の ひろば

[月刊]キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2016年11月1日発行 (毎月一回発行) 第706号

ISSN 0286-7001

出会い・本・人

人間であり続けること 岡野昌雄

本・批評と紹介

河合裕志 著

続 イエスの言葉100選 山北宣久

木原活信、藤井美和、岩野祐介 ほか 著

関西学院大学神学部ブックレット8

教会とディアコニア 森本典子

石居基夫 著

キリスト教における死と葬儀 吉岡恵生

船本弘毅 著

ガラテヤの信徒への手紙を読もう

岩田昌路

大崎節郎 著

大崎節郎著作集 第六巻

実践神学関係 藤井和弘

山崎英穂 著

アガペーの言葉 辻 建

小山晃佑 著／森泉弘次 訳

十字架につけられた精神 深田未来生

C.シュトローム 著／菊地純子 訳

カルヴァン 石原知弘

森下辰衛 監修／松下光雄 監修協力

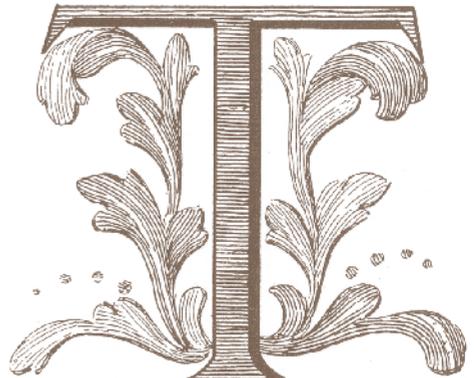
三浦綾子366のことはば 中村啓子

本屋さんが選んだお勧め本

近刊情報

書店案内

11 NOVEMBER
2016



ロゴセラピーのエッセンス

10月6日

18の基本概念

ヴィクトール・フランクル著 / 赤坂桃子訳



フランクルが『夜と霧』英語版に付した貴重な入門論文。ロゴセラピーの18の基本概念をコンパクトに説き明かす。また初期論文「心理療法における精神の問題について」を付す。巻末の解説は、日本でロゴセラピーを実践する精神科医・本多奈美氏（東北大学）と臨床心理士・草野智洋氏（静岡福祉大学）による2本。

◆小B6判・本体1850円

十字軍とイスラーム世界

10月下旬

神の名のもとに戦った人々

ロドニー・スターク著 / 櫻井康人訳



十字軍は侵略者だったのか？『キリスト教とローマ帝国』で著名な宗教社会学者が、西洋帝国主義の嚆矢とされる通説的十字軍像を歴史的に再検討し、その宗教的動機や社会的背景に迫った興味尽きない話題作。緻密な資料分析から、「聖地」をめぐるキリスト教世界とイスラーム世界の衝突の真相が浮かび上がる。

◆四六判・本体3200円

ローマの信徒への手紙

上巻

好評

原口尚彰著

邦人の手になる久々の本格注解



修辭学的II書簡論的分析の成果。ローマ書は紀元57年頃、コリントに滞在するパウロが書き送った手紙である。本書はこの手紙を、当時のディアスポラ書簡の文脈に置き直し、著者と読者のコミュニケーションの中でいかなるメッセージがやり取りされたかを精緻に解明する。上巻は、序論および本文8章までの注解。

◆A5判・本体4600円

合同教会の「法」を問う

10月21日

北村慈郎牧師の戒規免職無効確認等請求訴訟裁判記録

日本基督教団の教会法は正常に機能しているのか。

◆A5判・本体1700円

島の小さな教会

10月下旬

多摩美術大学環境デザイン学科 編著 ◆B5判・本体2000円

瀬戸内海に浮かぶ直島に建つ斬新な会堂の写真と解説。





出会い・本・人

人間であり続けること——岡野昌雄

人生経験と呼べるようなものがほとんどない高校生が、ふとしたきっかけで教会に誘われ、初めて聖書を読んだとき衝撃を受けました。自分が「人間である」ことに目覚めさせられた出来事でした。人並みに進学や就職など将来について考えることはあっても、そのような常識の世界とは違った視点から深く人間を見つめ直すことを教えられました。キリスト教についてまだ十分な知識がないままに、しかしただひたすら聖書と共に生きようと決心し受洗してから六十年が経ちました。その間に学んだことは、「人間が人間であり続ける」ことです。

アウグスティヌスは回心後の初期著作の中で、自分が知りたいたいと思うことは、自分自身と自分の根源である神だけだと言いましたが、わたしも同じような思いで、哲学を志しました。どのように生きたら、自分に命を与えた贈り主に応えることができるか、それを問い続けてきました。この問いは、信仰者であるなしにかかわらず、すべての人に共通した課題だと思うのです。喜寿を迎えた今でも、人間についてはわからないことばかりです。

わたしたちは、自分は唯一まことの神を信じているから自分の信仰も正しいと思いがちで他者をさばき、あるいは自分は神など信じない自由な人間であると思いを違えて、じつは自

分の信念や思い込みに囚われ、大事な問いかけに目を閉じてしまいがちです。自分があくまでも人間であることを自覚し、そのことに徹底し、その意味を誠実に問い続けなければならぬと思います。

編集者に誘われるままに、そのような思いを込めて自分の信仰について語った『イエスはなぜわがままなのか』を八年前に出版しましたが、今度『信じることをためらっている人へ』（新教出版社）と改題して、再版が出ました。出版の動機には、誰でも自分が人間であるということの本気になって考えることが大切であり、聖書のメッセージに一度は耳を傾けてほしいという思いと、自分の信じている神は絶対であっても、それを信じている自分はいくまでも人間であるということを忘れて、とかく神様目線で考えがちな、原理主義的信仰を危惧する思いとが重なっています。知識ばかりが先走って自分自身を深く見つめることが少なく、評論はするけれども自分自身を生きようとしていない、これほど寂しいことはありません。まず人間として誠実に生きること、問い続けること、わたしが聖書から学んだことです。

（おかの・まさお 国際基督教大学名誉教授）

快刀乱麻！ イエスの言葉は新鮮
河合裕志著

続 イエスの言葉100選

続 イエスの言葉
100選 河合裕志



山北宣久

「イエスの言葉100選」の続編である。「続」ともなれば「セコハン・マンネリ・二番煎じ」となりやすく「いつも柳の下に泥鰌はおらぬ」と相場は決まり易くあるが、どうして、どうしてドジョウだらけ、勢い良く跳ね上がっているのが本書。

イエスの言葉を紹介していくのだが「これは一寸困った言葉、あるいは大いに困った言葉」(二二頁)、「これは強い言葉、こわいような言葉」(四〇頁)、「どうも物騒な言葉、危険な言葉」(四二頁)、「これは予想外の言葉」(二二六頁)などと冒頭に書き、そこから入っていく手法が見られる。

さらに大胆な表現をも駆使する。「これがイエス流」(一〇七、一三五頁)、「イエスってずいぶんデカイことを言う人。これは豪語じゃない？」(二〇八頁)、「イエスは愛の人だと言っけれど結構心の狭いところがある」(八四頁)、「この言葉。一寸ひどくない？ 常識に反してない？」(二二二頁)等々。

強引な筆致も加えられる。海外宣教と日本企業の海外進出を同列で論じたり(一一三頁)、「弟子達に身を護るための剣所持を認めた。どうも不徹底。現実的と言えば現実的だけれど。何

とも言えないなあ」(一五七頁)、「光のあるうちに」を目的にいううちに、ととったらいけないだろうか(一九〇頁)等、散在する。

全体に「である調」でなく、言い切り体というか、断言方法を用いた文体が連続する。二頁見開きにイエスの言葉一つを取り上げるゆえ、短い物言いになるのだろう。

これらはしかしながら、「河合流」となって本書の特色をさらに強めているかも知れない。つまり徹底的に対話調の姿勢を保ち、むしろ「相手の土俵で敢えて相撲をとる」ことを旨として、イエスの言葉に関心を抱かせ、隔ての壁を取り壊さんとする願いのあらわれと見てとれる。

「～のでは？」「～かも」といった表現を多用しつつ、玄関先から、やがて奥座敷へと導かんとする。つまり診断書を書くのみならず、処方箋をも書くことをわきまえてのことだ。

「イエスは愛と正義の充満体。動く神の国」、「聖書はイエスの再来によって全地は神の国になると。それを信じてコッコツなすべきことをなす。希望を失わずに。これしかない」(一四

九頁)。こうしてズバツと切り込む時は、タイミングを外さない。

著者の牧する日本基督教団新横浜教会は、斉藤虎松さんが経営していた養鶏場・愛鶏園をボンと寄付して「この地を教会に」との願いが実現して新幹線の見える丘に建てられている。

この斉藤虎松さんの言葉が引用されている。
「普通のベストセラー本は、正直10年もたてば殆ど省みられなくなる中に、聖書ときたら2千年の歳月に耐え、凡ゆる思想にもまれ、しかも今日まで残った万年ベストセラー。そして今後も何千年もベストセラーをつづけることでしょう。それは生命ある本だからです」(一〇八頁)

虎松さんの言葉を肉体とさせ、新横浜教会でみ言葉が語られ、こうして二冊目のイエスの言葉が上梓される。これは生きた証しそのもので感謝にたえない。

本書の特長をもう一つ。それは祈り終わる文が多いということ。「イエスよ、私の耳と口を大きく開いて下さい」(八七頁)、

ルターから今を考える 宗教改革500年の記憶と想起

小田部進一



2017年に宗教改革から500年を迎えるのにあたり、ルターが行ったことをどのように想起するのか。その生涯と思想を追いながら、今につながる課題を見据える。

A5判並製・258頁・2500円＋税

そうか！なるほど！！ キリスト教

荒瀬牧彦／松本敏之 監修

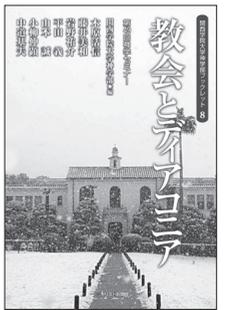


「聖書の章や節って、いつ誰がつけたの？」等、50の素朴な問い、難解な問いにその道の専門家が本気で、2頁で簡潔に答える。

A5判並製・136頁・1500円＋税

日本基督教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyoku@bp.uccj.or.jp 《価格税別》
<http://bp-uccj.jp>

教会が如何にディアコニアと向き合えば良いのか
 木原活信、藤井美和、岩野祐介、平田 義、
 山本 誠、小柳伸顕、中道基夫著
 関西学院大学神学部ブックレット8
教会とディアコニア
 第49回神学セミナー



森本典子

本書は、関西学院大学神学部が「ディアコニア・プログラム」を実施するのに先立ち開催された神学セミナーの基調講演、シンポジウムそして礼拝の内容を記録したブックレットである。

基調講演は同志社大学社会福祉学部の木原活信先生、講演は関西学院大学人間福祉学部の藤井美和先生と神学部の岩野祐介先生、そしてシンポジウムはそれぞれ障がい者、高齢者、日雇い労働者と関わる施設や地域を働きの場とする平田義さん、山本誠さん、小柳伸顕さんであり、礼拝は神学部の中道基夫先生が担当された。

木原先生の基調講演は「教会と社会福祉」というテーマで、自身が持つ問題意識から話が展開される。その問題意識とは、①教会派と社会派が分断している、②キリスト教と社会福祉が分離し失われたキリスト教のダイナミズムを如何に回復するか、③今日の日本の教会に他者の苦しみへの共感があるか、④教会はイエスのように隣人へ即ち地域へと自ら出掛けているかの四点である。これらの問題意識を前提に、多様化する社会福祉の働きに対して教会はどのように関わっているのか、そして

関わるのが望ましいのかを話す。結びの部分における教会派、教会派という分類をやめ、それぞれが自らに設けた枠から解放され「イエスの誘いに耳を傾け、イエスとともに船に乗り込み」「失われた人」を探し出すという宣教の働きとディアコニアが一体となる」ことにより祝福が与えられるというくだりは、一八世紀にドイツで始まり世界へ拡大したディアコニア運動の精神を想起させる。

藤井先生は死生学を専門とする立場から、自らの経験も交えてディアコニアの基本姿勢としての「苦しみに寄り添う」ということをわかりやすく語り、また、岩野先生はこれまであまり試みてこれなかった日本におけるディアコニアの歴史を、自身が専門とする内村鑑三の例など用いて解説する。

シンポジウムではそれぞれの発題者が、障がい者施設、高齢者施設、日雇い労働者の街釜ヶ崎におけるディアコニアの実践からそれぞれが感じていることを紹介しているが、藤井先生の言う「苦しみに寄り添う」ことを実践してきた三人からの発題は、日本のキリスト教会はどうするのかという問いでもあるだ

らう。会場からの声としても、教会が自らの課題としてディアコニアと向き合うことの必要性を感じていることが窺える内容のものも多くあった。シンポジウムのコーディネーターである榎本てる子先生の、実践の場と神学教育の場をどのように結び付けていくことができるのか、キリスト教が大切にしている隣人に仕えるということ、言葉だけではなく自ら実践できるような学生を育てたいという思いも感じることができた。

私自身このセミナーに参加していたのだが、テープ起こしされ、編集されたそれぞれの講演や発題は丁寧に文章化されていて読みやすいものとなっている。

神学のみならず社会福祉学や実際の福祉現場で活動する方々による、それぞれの立場からの教会とディアコニアをめぐる話は、堅苦しい机上の神学的議論ではなくこれからの日本のキリスト教会が如何にディアコニアと向き合えば良いのかを示唆す

るものとなっている。それはとりもなおさず、それぞれの講演者や発題者がそれぞれの場でディアコニアと丁寧に向き合ってきた結果なのだろう。

ここでひとつ興味深かったのは、日本のキリスト教会でしばしば取り上げられるある意味特殊なドイツの「施設のディアコニア」について誰も触れていないことである。ディアコニアを教会からアウトソーシングしてしまったと考えるドイツ人もいる昨今の状況を考えれば「教会とディアコニア」は時に適ったテーマであるのかもしれない。

(もりもと・のりこ) 関西学院大学神学部非常勤講師、デンマーク・ディアコニヤ事業団ディレクター
 (A5判・二五〇頁・本体一五〇〇円＋税・キリスト新聞社)

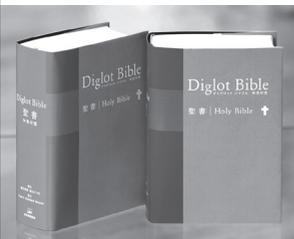
新しい
**和英対照聖書が
 できました。**

日本語訳と英語訳の
 理想的組み合わせ

総ルビ 和英対照聖書

**ダイグロット
 バイブル**

Diglot Bible ダイグロット...
 「2ヶ国語版」の意



English
 Standard
 Version

聖書
 新共同訳
 総ルビ

① 欽定訳の伝統を引き継ぐ、
 原典に忠実かつ格調が高い
 全世界で急速に愛読者が増えている、
 必読の英語訳「ESV」

② カトリックとプロテスタント諸教会、
 全国のミッションスクールで、
 圧倒的シェアを誇る「聖書 新共同訳」

●B6判 ●旧新約・3,120頁
 ●本文：約8ポイント ●総ルビ
 ●巻末カラー地図(日本語英語各7葉)つき

定価(本体**6,300円**＋税)

NIESV54DI ピンク
 ISBN978-4-8202-1334-5

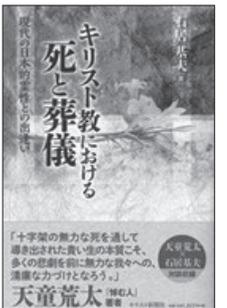
NIESV54DI ブルー
 ISBN978-4-8202-1335-2

お求めはお近くの書店または

日本聖書協会
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 聖書館ビル
 TEL03-3567-1987 http://www.bible.or.jp/

「死」と向き合うための羅針盤
石居基夫著

キリスト教における死と葬儀 現代の日本的霊性ととの出逢い



吉岡恵生

人は誰しも死に向かうプロセスの中を生きている。言うならば、どのように生きるかを考えることは、どのように死にゆくのかを考えることであるのだ。しかし今日、死を自分自身に起こる出来事として身近に感じている人はそう多くない。いや、感じてはいるが、あえて見て見ぬ振りをしている人もいるのかもしれないし、時代や社会状況が死を見えなくさせているという事実もあるだろう。死という出来事は、本来人が避けようなく向き合うべき問題であるにもかかわらず、いまだにタブーの域を脱し切れていない、恐れと闇に満ちた出来事なのである。

もちろん、死の先にある復活の命という希望を語るキリスト教の信仰は、このタブーに真っ向から挑戦し、その闇に光を届ける力を持っている。しかし、普遍的な死の問題は、時代や場所によって異なる固有の問題をはらんでおり、その地その地に生きる人々の宗教的、社会的、文化的状況を理解しなければ、一辺倒にキリスト教の教義を語っても本来の力を発揮することはできない。事実、私は日本とアメリカの教会において人の死に向き合ってきたが、この二国だけを比較しても、そこに

生きる人々の死生観には違いがあり、それは、人の死を起点とする通過儀礼としての葬儀の在り方にも、様々な違いを生み出すものであることを感じてきた。恐れと闇に満ちた死という出来事に、キリスト教が示す希望の光を確実に届けていくためには、その地その地にある固有の、あるいは土着の宗教的、社会的、文化的状況に、まず深い理解と共感をしていく必要があるのである。

この点において、本書は極めて丁寧に、日本人の伝統的な霊性や死生観と向き合いながら、現代日本における死と、それに対するキリスト教の関わり方について、具体的かつ実践的な道標を与えてくれる。

著者は、「日本人らしい伝統的な宗教性には二つのものがある」と言う。一つは「自然の大きないのちの循環の中に私たちがいのちもある」という感覚（自然志向型の宗教性）であり、もう一つは「死んだ人はいなくなるわけではなくて、共同体の中に生き続けている」という感覚（共同体志向型の宗教性）である。この二つの宗教性は、日本人の伝統的な死の受容システ

ムを構築し、死に伴う喪失感を和らげたり、心の痛みを癒したる機能を果たしてきた。しかし今日、自然破壊や共同体の崩壊によって、これらの伝統的な死の受容システムは機能しなくなっている。著者はこれを「ふるさと喪失」と表現するが、一方で聖書には、自然も私たちも造られた神が、いのちの主、いのちの源として、造られたすべてのいのちを保ち続けてくださることが告げられている。著者はこの点に注目し、「聖書は、私たちが本当の意味で平安を与えられるまことの『ふるさと』を指し示している」と指摘する。日本人の伝統的な死の受容システムが機能しなくなっている今だからこそ、日本人の宗教性が求めているものをはるかに満たすことのできる、聖書の「ふるさと」を分かち合っていくことが求められているのである。

では、どのようにして、現代の日本的霊性とキリスト教の福

音は出逢うのだろうか。その問いに応えてくれるのが、本書である。死への準備の大切さや、人が死に直面した時の看取りの在り方、そして死後に行われていく葬儀の在り方などを具体的かつ実践的に指し示してくれる本書は、死という問題と向き合うための羅針盤のようなものである。牧師にとっても、信徒にとっても、またキリスト者の家族を持つ非キリスト者にとっても、本書は大きな助けとなるに違いない。ぜひ本書を読んで、自分や愛する人々のいのちを改めて見つめ、死へ向かうプロセスを真剣に考えていくことを始めてほしい。

（よしおか・やすたか）米国キリスト教高同教会シカゴ組合教会日本語部牧師
（四六判・二四六頁・本体一八〇〇円＋税・キリスト新聞社）

日本聖公会



おいで 子どもたち

初めて陪餐する子どもたちへ

文 斎藤惇夫 ○ 写真 田中雅之

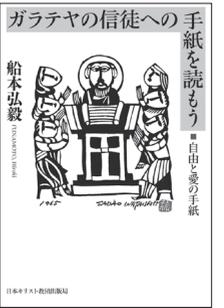
「バイサンってなあに？」子どもたちの素朴な問いに、あなたならどう答えますか。児童文学作家・斎藤惇夫が聖餐にこめられた意味と聖餐にあずかることの素晴らしさを、一編の小さな詩に表現しました。なにげない教会生活の風景を切り取った写真も美しい、小さな小さな絵本。すべての「神さまの子どもたち」へ贈る、心あたたまるプレゼント。

A6変形・32頁・本体700円＋税

162-0805 東京都新宿区矢来町 65 番地
TEL03-5228-3171/FAX03-5228-3175
http://www.nskk.org/province/

読者に新しい力を与える神の招きを聴きとる
船本弘毅著

ガラテヤの信徒への手紙を読もう 自由と愛の手紙



岩田昌路

お気軽に購入でき、平易で読みやすく、聖書の核心に触れることができる、そんな格別な一冊をここに紹介したい。

著者の船本弘毅氏は、関西学院大学名誉教授であり、聖書学の研究者として著名である。また、教会の牧師、東京女子大学や東洋英和女学院の院長・学長として、これまで広く活躍してこられた方でもある。訳書・著書は多数あるが、キリスト教入門書として、聖書の言葉をわかりやすく説き、祈りの言葉、キリスト教の歴史・文化を紹介するような、一般の人々にも読まれやすい本が多くあることに気づく。NHKラジオの「宗教の時間」をはじめ、各種の聖書講座を通して、聖書のメッセージに触れた人々も多いと思う。泊江教会でも船本氏を特別伝道礼拝でお招きしたことがある。明快で深みのある説教により一同恵みの時を経験したことを思い起こす。現在八二歳になられるが、なお精力的に活躍くださることをとても嬉しく思う。

この本は、著者が日本聖書神学校の神学基礎講座で担当された一〇回の内容をまとめたものである。講座のテーマは「今を生きるわたしたちとガラテヤ書」である。神学校の講座がべー

スにあるので、厳密には入門書ではなく、説教集でもないかもしれない。しかし、一読して、ある人々には聖書を読むきっかけとなる本にもなり、神の招きの言葉そのものを聴きとる本にもなるだろうと思った。それは、講座のテーマにも表されているが、著者がガラテヤ書の言葉を「今を生きるわたしたち」に語りかけ、新しい力を与える神の言葉として一貫して説いているからである。著者はあとがきで「この手紙は、自由であるとはどういうことなのか、愛するとはどういうことなのか、生きるとはどういうことなのか、信じるとはどういうことなのかを、わたしたちに問い続けています」と記す。私自身も本書を読み終えてガラテヤ書を改めて読み直してみた。この本はガラテヤ書を説きつつ、今を生きるわたしたちを主の名による問いの前に立たせるような役割を果たしていると感じた。

一〇回の講義の内容は、ガラテヤ書を読み進める順番で以下の通りである。第一章「ガラテヤの信徒への手紙とは何か」、第二章「人々からでもなく、人を通してでもなく」、第三章「伝道者パウロの確信」、第四章「イエス・キリストへの信仰によ

って」、第五章「律法・信仰・約束」、第六章「キリストが形づくられるまで」、第七章「キリスト者の自由」、第八章「霊の結び実、肉の結び実」、第九章「互いに重荷を担いなさい」、第一〇章「新しく創造される」。どれも反芻したい内容である。ガラテヤ書は、使徒パウロが異邦人教会を建て上げるために労苦し戦った生の言葉が満ちている書簡である。聖書の言葉の一つ一つに使徒パウロの確信や願いが込められている。著者は堅実な釈義を背景に、使徒パウロのこだわりの言葉に留まり、それを忠実に紹介している。同時に、著者の幅広い多方面での知識が、ガラテヤ書のメッセージを鮮明にし、現代社会に立体的に立ち上げる道具として用いられている。実際の講義には、また違った味わいや豊かさがあつたであろうことを想像しながら、各章の内容をじっくりと味わわせて頂いた。

著者は、最終章で、使徒パウロが厳しく貫いた信仰を鮮明にしながら、ガラテヤ書の意義を以下のように記している。「豊

かな時代の中に生きて、人の声が、情報が、氾濫する時代の中に生きて、また権利主張の極めて強い社会の風潮の中にあつて、わたしたちの信仰もまた、甘く中途半端な『安価な恵み』に墮する危険をもつています。ガラテヤの信徒への手紙はそのようなわたしたちに対し、厳しい警鐘を鳴らしています。確かに、わたしたちが自覚し引き受けるべき信仰の戦いがある。

二〇一七年は宗教改革五〇〇年を記念する年である。ガラテヤ書は宗教改革者マルティン・ルターが愛した書簡として有名である。この書簡にはルターを根底から突き動かした言葉が満ちているのである。ルターも使徒パウロに倣い、キリストの福音に生きる戦いに己の身を投じたのである。宗教改革五〇〇年を有意義に記念し、信仰を新たにさせられるためにも、この本の出版を心から感謝し、お手元に置かれることをお勧めする。

(いわた・まさみち 日本基督教団泊江教会牧師)
(四六判・一六二頁・本体一五〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)

新刊

北森嘉蔵伝
その生涯と思想
丸山久美子

北森嘉蔵氏 100 年忌追悼
日本人が著した初の世界的傑作
「神の霊性の神学」は、その命と共に
生まれ、受け入れられたのか

丸山久美子「著」
世界的名著『神の痛
みの神学』は、いか
にして生まれ、受容
されていったのか。

A5判・2100円＋税

善美なる神への
愛の諸相
『フィロカリア』論考集

土橋 茂樹 [編著]

東方霊性の源泉『フィロカリア』
の豊かさを浮き彫りにする論
文集。 A5判・2900円＋税

21世紀神秘思想
エックハルトの霊性

W・イエーガー [著]

好評の講話集の後編。キリス
ト教と東洋的霊性の統合の
試み。「神秘的体験」を
求めて。 A5判・2000円＋税

●自費出版

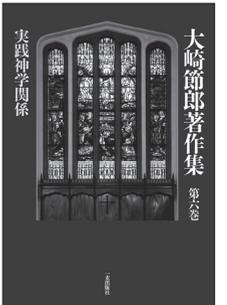
お気軽にご相談下さい
教会史・説教集・論文集……文書
伝道にご奉仕します。高品質で
廉価な本作りを心がけています。

教友社

275-0017 習志野市藤崎 6-15-14
TEL047-403-4818 FAX047-403-4819
http://www.kyoyusha.com

福音の真理を追究し、証しする光栄を喜ぶ
大崎節郎著

大崎節郎著作集 第六巻 実践神学関係



藤井和弘

本書は一麦出版社刊の『大崎節郎著作集』（全七巻）の第六巻にあたる。「実践神学関係」というタイトルが付けられているが、その内容は実践神学という枠をこえて幅広いものとなっている。

全体のおよそ四分の三にさまざまな機会に著者が行った講演が収められている。テーマは、教会、礼拝、説教、聖餐、職制、教育に及んでおり、著者の関心の幅広さとその一つひとつに対する問題意識の深さを示している。講演はいわゆる教職者（牧師）を対象にしたものばかりではない。広く信徒を対象にした集会での講演や、ひとつの教会を会場に行われた講演もある。牧師・信徒を問わず、教会をとりまく困難な状況にあつて福音宣教と教会形成に苦闘しながらも喜びをもって仕えようとしている人々に向けて語られたものといえよう。そのときどきの会場の熱気が伝わってくるようである。

言うまでもないが、著者は教義学者である。本書に収められた講演もその立場から体系的に整えられたものとなっている。それぞれのテーマにかかわる重要な諸問題が歴史的に概観され、

それらが神の言葉としての聖書の証言の内実によって批判的に検討されていく。

著者は言う。「歴史の回顧は過去における事実の確認作業ですが、事実が常に真理を語っているとはかぎりません。教会は歴史的存在でありますから、教会の問題は歴史を回顧しながら正当な答えを求めていかなければなりません」（二〇五頁）。真理を追究する著者の真摯な態度は、ときに教会の内に潜む「聖なるエゴイズム」を明るみに出す。しかし、それはどこまでもイエス・キリストの十字架と復活において到来している神の国を、独り子を与えるほどに愛された世において証しするという教会の目的に教会自身がよく仕えるためにせひとも必要なことなのである。本書をとおして読者はしっかりとした道筋をたどりながら一つひとつのテーマについて学びを深めることができるのであるうし、新たな発見を経験する喜びを味わうことができるであろう。

著者である大崎節郎氏について、筆者はこれまで説教集（「光あれ！」）やカール・バルトに関する書物を通じての出

会いを与えられてきた。今回本書によって、著者が宮城県にあるアメリカ・バプテスト教会の女性宣教師たちによって始められた尚綱学院の学院長を務めておられたことを知る機会を得た。本書の講演の中には、母校の創立記念式典での講演（「教育の課題」）や別のキリスト教主義学校の教職員を対象にした講演（「キリスト教と学校教育」）も含まれている。そのあたりの経緯等については知る由もないが、著者が情熱と喜びをもって学校教育の現場にかかわっておられたことをうかがい知ることができる。

本書全体の残り四分の一にあたる部分に、尚綱学院に関係する文書が「学院関係」「幼稚園関係」「中学校関係」「高校関係」「エッセイ」「短大・大学関係」「その他」の分類に収められている。講演のような長いものではないが、その数の多さと多岐にわたる内容は、そのまま学院全体を束ねなければならない学院長として果たすべき重責を映し出しているといえる。そのよ

うな中にも、入学（園）式や卒業（園）式の祝辞において、聖書や先人たちの言葉にふれながら年齢に応じた形で、園児、生徒、学生に向かって語りかける著者の姿を見出す。そこにおいて著者が絶えず見据えているのは、「人間の人間らしい形成」ということである。ここでの「人間らしさ」が、人間の真の形成者であるイエス・キリストの神に根ざすものであり、そこから賜物として与えられるものであるという見解は、教育をめぐる現在の状況において教会がもっと証しすべきことなのかもしれない。

いずれにせよ、教職（牧師）だけでなく、教会を信じ、さまざまな形で教会に仕えておられる多くの方々手に取っていただきたい書である。

（ふじい・かずひろ）日本キリスト教会南浦和教会牧師、日本キリスト教会神学校実践神学部門講師

（菊判・四八〇頁・本体七〇〇円＋税・一麦出版社）



救済論

（改革派教義学）第5巻

牧田吉和
Yoshikazu Makita



神学は救済の意味を
個人的・教会的枠内で問う
傾向を強めてきた。
両者の枠を踏まえつつ、
神の国の視点から
救済の包括的な意味を問う。

A5判・上製・函入
定価 [本体 4,200 + 税] 円
ISBN978-4-86325-050-5



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

やさしさと暖かさに包まれた魂を潤すメッセージ
山崎英穂著

アガペーの言葉



辻建

山崎英穂牧師の説教集『アガペーの言葉』は『エルピスの言葉』『ピステイスの言葉』とともに三部作をなしている。山崎牧師が公にしている説教集はすでに十冊を越えているから、同師の説教の愛好者は関西一円を越えて、日本の各地に拡がっていることだろう。今日の代表的説教者の一人と言っても過言ではない。わたしもその愛好者の一人である。

三部作の最初の『エルピスの言葉』は兵庫県尼崎市の阪急塚口駅にほど近い日本基督教団塚口教会で伝道文書として毎月発行されたA4判のパンフレット『エルピス』に書きためられた文章のなかから八十篇を選んで二〇〇八年、教会創立六〇周年記念事業の一環として刊行されたものだった。その一年後、二〇〇九年に二冊目の『ピステイスの言葉』が刊行された。

塚口教会と言えば、長年にわたり日本新約学会の会長をつとめられた松木治三郎教授の牧会された、長老派の伝統をもつ教会である。教授の関西学院神学部でのゼミの指導は厳しいもので、とくにパウロに関して学生が下手な発言でもすれば大声で指摘の声が飛んでくるという雰囲気だった。しかしその門下か

ら松永晋一、小林昭雄、船本弘毅、山内一郎といった聖書学者を輩出し、多くの伝道者が育って各地に散って行った。しかし松木教授が塚口教会の後継者として選ばれたのが、山崎英穂牧師だった。伝道師、副牧師として陰から支えたこの人物を先生は誰よりも愛され、同労者として側にいて欲しいと願われたのである。その生涯の終わりに枕元での聖餐式を司式したのも山崎牧師だった。しかし山崎牧師は松木教授のコピーではなく、自立してご自分のカラーをしつかり確立されて行った。

『アガペーの言葉』の中には、わずかではあるが山崎牧師の個人史に触れた箇所が出てくる。山崎牧師のご尊父は滋賀県彦根におられる頃、おばさんの導きで日曜学校へ通われていたが、その後宇和島に移られ、工場で片腕を失うという大けがを負われる。折しも催された教会の伝道集会で「放蕩息子」の話を耳にし、この弟子こそその父のもとを離れていた自分の姿であり、神は変わることなく自分を待っておられたと知って、ご夫婦で信仰の道に入られる。英穂牧師が生まれる七年前のことである。このご両親の祈りと期待とがのちの英穂牧師の信仰と人柄に流

れ込んでいることは言うを俟たない。

『アガペーの言葉』は二ページがひとつの文章として編集されている。それは三部作に共通する枠組みである。そこに流れている基調はご両親から受け継がれたやさしさと暖かさである。どのページにも人を羊毛で包み込むようなやさしさが溢れており、渴いた魂をうるおさずにはおかない。

教会に初めて足を踏み入れた方たちのために書かれた文章という目的を反映してか、どの文章も、その出だしに一つの特徴が見られる。「私たちの人生においては、厳しい言葉を発せざるをえない時があります」「だれでも『自分ほど不幸な者はない』と思うことがあります」「そのことを思い出すと本当に恥ずかしく、居ても立ってもいられないということが、一つや二つはあるのではないのでしょうか。こうして読者の関心を惹きつけておいて、記述は聖書の事柄へと読者を導いていく。そして結びは例外なくイエス・キリストの死と復活の出来事へと結

びついて行く。そこには「イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです」とあるキリストへの集中が排他的に示されていると云ってよい。

悪性リンパ腫との闘病のために一時は完成を危ぶまれた三部作がこうして無事完結したことを心からお祝いしたいと思う。しかしまだ神は山崎牧師に地上の生を残されている。説教者としての生もまだ残されている。そして人は年齢を重ねる毎に一層色濃く現実の複雑さが見えてくるものであり、それに従ってみ言葉も味わいを濃くしていくものだ。その奥行きを深さをまだまだ味わいながら、つぎの説教集が編まれることを期待しているのは私だけではないと思っ

(つじ・けん) 日本基督教団隠退教師
(A5判・一九二頁・本体一〇〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)

木下和好著

聖書の教える 金持ち父さん 貧乏父さん50

お金の汚れたモノ? 富や蓄財は罪なのか?
「お金を稼ぐことは良いことなのか、それとも悪いことなのか」聖書はどう教えているのだろうか。これまでの歩みの中で気づかされてきたエッセンス50篇。著者初の経済関連書で「お金とそのカシコイ使い方に、ベスト・アンサー!」

絶対発売中

お金の汚れたモノ? 富や蓄財は罪なのか?
「お金を稼ぐことは良いことなのか、それとも悪いことなのか」聖書はどう教えているのだろうか。これまでの歩みの中で気づかされてきたエッセンス50篇。著者初の経済関連書で「お金とそのカシコイ使い方に、ベスト・アンサー!」

ヨベル新書 038
168頁・1,000円 (税別)
ISBN978-4-907486-40-2

渡辺善太著作選⑬ 最新刊

人間—この失われたもの

待望の名説教が復活した! 加藤常昭先生の論文「聖書の説教」の方法論的考察」を付した第7弾の配本。
ヨベル新書 037・本体1,800円＋税

渡辺善太著作選 全13冊別巻1 既刊案内

- ① 偽善者を出す処 — 偽善者は教会の必然的現象
- ② 現実教会の福音的認識、他
- ③ 聖書論 — 聖書正典論 1/1
- ④ 聖書論 — 聖書正典論 2/1
- ⑤ 聖書の説教とは?
- ⑥ わかって、わからないキリスト教
- ⑦ 人間 — この失われたもの

定価 1,800円＋税

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
自費出版の専門出版社

斬新な表現で現代の神学思想に挑戦する

小山晃佑著

森泉弘次訳

十字架につけられた精神 アジアに根ざすグローバル宣教論



深田未来生

いくつかの点で、一九七七年出版の本著の翻訳が四〇年近く経った二〇一六年に出版の日を迎えることは興味深いことである。一つに著者小山の本著以降の著作はすでに出版されていること、第二として小山が死去してすでに七年の年月が流れていることである。私がこの出版に注目し、喜びに堪えないのは、一九七七年（SCM・キリスト者学生運動出版局）にこの本を手にし、私はすぐにプリントを作成し、同志社大学神学部の英語講読のクラスでテキストとして用いたからである。学生はまず題の翻訳に戸惑ったようで、私は十数年間の小山の友人、またアジアにおける神学教育の同僚として彼の人物像を語り、英語の講読を進めたのを思い出す。原題、すなわち『十字架には把手がついていない (No Handle on the Cross)』は神学書の題らしくないと学生たちは感じたようであったが、読み進むうちに小山の深い神学的洞察が青年たちに強い刺激を与えているのを感じ取ることができた。

小山晃佑（一九二九—二〇〇九）は日本人である。アジア人であり、また少々大げさに聞こえるかもしれないが世界人である。

さて、その小山が神学する土壌は太平洋戦争終結後の混沌から脱皮しようとしていた日本から始まった。そしてプリンストン神学大学から博士号を取得し、結婚後日本基督教団宣教師として派遣されたタイでの神学教育者としての働きと周辺地域での伝道活動は全く新しい、刺激的土壌を彼に提供した。『水牛神学』（一九七四年出版、邦訳『教文館、二〇一一年』）は彼の神学に画期的広がりを見せている。そして二年後に本著が出版されたのであった。その間、彼はシンガポールでの東南アジア神学大学院および東南アジア神学校連盟の責任を果たし、ニュージーランドのオタゴ大学教授として転任している。

本著はその原題だけに注目すると神学書とは思えない。そういうならば小山の著作の題は日本語、英語を問わず意表を突くようなものが多く、神学の「匂い」が薄いといえよう。しかし、内容は極めて深く現代世界、社会情勢、そして聖書のメッセージと主張を鋭く捉えて関連させ、斬新な表現で現代の神学思想

る。しかし彼を神学者として取り上げるとき、小山はどのカテゴリーにも当てはまるし、同時にすべてに足場を持つ背景と力を持つことによりユニークである。しかし、この幅広さがゆえに、特に日本において小山の神学的視座や洞察は十分に評価されてこなかったのではないかと思うときがある。言い換えるとその神学的・思想的スケールにおいて日本の神学界には馴染みにくい面があったのかもしれない。それが、本著の原題がある人たちには奇異に響く原因かもしれない。

日本の神学界に小山を評価することに積極的ではない側面があるのは、彼の主要な著作はすべて英語で出版されていることも一つの原因であろう。そして彼の描写的表現は英語では極めてカラフルで雄弁なのだが、日本語訳に取り組む人には困難が伴ったのではないかと推測する。しかしまた、彼の講演や説教を聞いたキリスト教徒たちは繰り返し感動し、また信仰を刺激され強められたのを私たちはどう理解したらよいのだろうか。小山の信仰の背景であるキリスト同信会（プリマス・ブレスレン）の修養会や研修会は繰り返し彼を招いている。

に挑戦するのである。同時に表現は斬新でも小山には神学、キリスト教信仰、また教会の伝統を軽視しない謙虚な真理探究の姿勢が顕著である。それは一概に彼の神学が保守的だとか、正統路線的だということではない。彼の神学的スタンスは今、ここに生きる人間、社会的・文化的環境や情勢の真つただ中でキリストを見出して、そのキリストの姿と指針を描き、論調を明確化することにあるといえる。そういう意味でこの一冊は新鮮な、優れた神学書なのである。

一言、翻訳に触れておく。小山の英語の生き生きとしたスタイルを日本語に訳すのは極めて困難なだけに、本著の翻訳者の努力に敬意を表しておきたい。

（ふかだ・みきお 同志社大学名誉教授）
（四六判・二八頁・本体三〇〇円＋税・教文館）



『キリスト者の自由』を読む

ルター研究所 編著

●B6判並製 ●定価：1000円＋税

日本福音ルーテル教会
宗教改革500年記念事業
推奨図書

ルターの不朽の名著『キリスト者の自由』は、ルターが受けとめた聖書の教えを、実に骨太に論理的に組みたて論述し、信仰者の生のあり方が整理され述べられている。また500年前の書物を我々が読むには、すべての現代人が共通に直面している課題という視点が必要であろう。（「あとがき」より）
ISBN978-4-86376-050-9

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

歴史の中のカルヴァン像
C・シュトローム著
菊地純子訳

カルヴァン
亡命者と生きた改革者



カルヴァン
亡命者と生きた改革者
Johannes Calvin
Life and Spirit in Reformation
Chicago Studies
C.シュトローム 著 菊地純子 訳

石原知弘

すでに日本語でも多くのカルヴァン伝を読むことができる恵まれた環境の中に、また新たな一冊が加えられた。

著者シュトロームは、一九五八年生まれのドイツの教会史家である。ハイデルベルク大学の教授であるが、訳者によれば「文献の研究のためにジュネーヴに滞在することが多いのではないかと」いう様子の、原典に徹底して当たる文献学者、歴史研究者」とのことである。ドイツ語の原著はカルヴァン生誕五〇〇年が祝われた二〇〇九年に出版されている。そのような書物が宗教改革五〇〇年の記念の年を前にして日本語でも読めるようになったことを喜びたい。

これまで翻訳されてきたカルヴァンの伝記は、コットレヤマクグラスによる大部な著作もあれば、「はじめての」シリーズのエルウッドによる書物のようなコンパクトな入門書もある。約一七〇頁の本書はサイズとしては後者に属すると言えるので、初めてカルヴァンの生涯と働きについて学ぼうとする人にとってその全体像をつかむのに良い書物である。同時に、すでにカルヴァンについてよく知っている者も最新の文献・歴史研究に

基づくカルヴァン伝はどのようなものを期待して読むことができるであろう。

カルヴァンの生涯を年代に沿って比較的こまかく区切りながら叙述しているので、関心のあるところから開いて読んでいくこともできる。内容としては、特に教会規律の確立を目指すカルヴァンの努力に多くの注意が向けられている。他の著書や論文にも教会法に関するものが多く見られる著者の関心の表れであろう。そのカルヴァンの努力が成果を収めるまでの一五四三年から五五年までの重要な期間については、教会規律に関する面と教理に関する面とを分けて詳しく記している。最後にカルヴァンの神学の特性和世界に及ぼした影響についても論じられている。

教会規律への関心と合わせて本書の一つの特色となっているのは、訳者と編集者の協議によって邦訳の副題とされた「亡命者」という視点であろう。オーバーマンなどによる研究以来のカルヴァンに対する一つの重要な視点である。カルヴァンの人物像についてはジュネーヴに君臨した指導者というイメージが

強いかもしれないが、信仰のゆえに祖国フランスを追われた亡命者であった。一五三六年、ファレルに請われてジュネーヴで聖書の講義を始めたとき、俸給の手続きを行った市の書記はカルヴァンの名前を知らず、ただ「あのフランス人」とメモしたという(六一頁)。シュトラスブルク時代を経て再びジュネーヴに戻ったあとも、カルヴァンに反感を持った男から「フランスのスパイ」と呼ばれるようなこともあった(二〇〇頁)。カルヴァンはその死のときまで、フランスからの亡命者として生き、働いた改革者であった。

その意味では副題は、亡命者「として」生きた改革者とすることもできたと思われるが、亡命者「と」生きた改革者とされる牧会者としても生きたからである。一五三九年からのシュトラスブルク時代にはフランス語亡命者教会で働き、ジュネーヴ

帰還後も増え続けるフランスやその他の国々からの亡命者たちを牧会した。亡命者たちの困難に寄り添いつつ、亡命者の増加によって生じた地元住民との摩擦という問題にも取り組んだのであった。

亡命や難民生活ということが大規模な現実となっている今日の世界である。また、亡命ということだけでなくも外国の人たちと暮らすということは今や私たちの日常である。そうした中で本書のような視点による研究は多くの示唆を与えてくれるであろう。貴重な書物を紹介してくださった訳者に感謝したい。

(いしはら・ともひろ) 日本キリスト改革派園田教会牧師
(四六判・一七六頁・本体三二〇円＋税・教文館)

鈴木明子著

(東京MCA社会体育・保健
専門学校 学校長 鈴木明子)

うたであそびほう
あそびうた50

●B5判・112頁・
1,500円(税別)

幼稚園・保育園、CSSの先生方へきょうから現場ですぐに使えます！
片山知子さん推奨「幼稚園大賞」乳幼児期の子どもの良好な応答関係の助けとなる一曲一曲、遊び方の解説も嬉しく、どれも直ぐに試したい気持ちに：ピアノ伴奏の解説が丁寧に付けられているのも実践を伴う教育者ならではの配慮である。……各曲につけられた奥田なつ子さんのイラストにも注目したい。

陶山義雄著 (東洋英和女学院大学名誉教授)

ヘンデル・メサイア
心に響く言葉と音楽・癒しのメッセージ

ここには、いのちの泉がある。死を乗り越える力が語られている。

作品の通して聖書の真髄に迫る音楽でもある「メサイア」。本書は、ヘンデルが参照したさまざまな聖書の出典内容を詳説すると共に、彼がどのようにそれらを解釈し・作品化しているかを追求。ヘンデルのひらかれた信仰観・歴史観を開示しつつ、曲の魅力を平明に伝える。クリスマス前の必読書。

●A5判美装・240頁・1,800円＋税

山本美紀著 ¥945+税
メンディソンの音楽
—福音派讃美歌の源流と私たちの讃美

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
*自費出版の専門出版社*資料・呈

命与える言葉の宝石箱
森下辰衛 監修
松下光雄 監修協力

三浦綾子366のことば



中村啓子

フェイスブックを開かない日はない昨今、中でも楽しみなのが、三浦綾子読書会のページに松下光雄氏が毎日アップなさる、綾子さんの言葉です。この言葉をシェアすると、三浦綾子さんを知らない方たちからも多くの「いいねー」が届きます。

それほど綾子さんの言葉には命があつて、人々の心の中に入っていくことを思われます。

数多くの綾子さんの作品の中から抽出された、これらの言葉を一度に目にするのができたら、その時々迷いや悩みに対する指標を得られるのに……。そう思っていた矢先、三浦綾子記念文学館特別研究員、三浦綾子読書会代表、森下辰衛氏の監修により、『三浦綾子366のことば』が出版されることを知りました。

真新しい本が届き、ワクワクしながら開いたページには、曆形式に日々の短いことばが並べられていました。適度な余白があり、文字が詰まっていないので、目にも優しい構成です。これなら、どんなに忙しい人にも読める！ 読書が苦手な人も読みたくなる！ そう思いながら読み始めた私は、夢中になって、

のではないですよ」（『愛の鬼才』）

「人を励まし、希望と勇気を与えること、これこそ本当の人間の生き方ではないだろうか」（『光あるうちに』）

それにしても、なぜ綾子さんの作品には、かくも多くの真理の言葉が組み込まれているのでしょうか。その答えともいえるべき言葉もまた、この本の中に見つけました。

「わたしにとって読書とは、自分の生きる姿勢を正してくれるものでなければなりません。わたしの心を激しくゆさぶる『お前は、どのように生きているのか』と、問いただしてくれるものでなければなりません」（『遺された言葉』）

十三年もの長きにわたり病に伏し、奇跡的に回復し、光世さんという伴侶を得られ、一躍人気作家となられた後も、様々な病に見舞われた三浦綾子さんは、その経験の中から、どれだけ

日付を無視して一気に読み切っていました。そして、心に残る言葉をマーケティングしようと右手に持っていた赤いペンは、気づいたらほとんどすべてをマークしてしまっていたのでした。

ちょうどこの原稿を書き始めた時、ある人からこんなメールが届きました。「不快なことに当たっても、怒り、憤りに至らず、心が穏やかでいられる導きの言葉があつたら、教えてもらえますか？」

なんとというタイミングでしょう！

私は、ローマの信徒への手紙12章19節の聖句に添えて、本書の中から、次の三つの言葉を贈りました。

「今の君にはくが贈るのは、へわれわれ人間はすべて、弱さと過ちからつくられてる。われわれの愚かさを許し合おう。これが自然の第一歩の掟である」という言葉です」（『帰りにぬ風』）

「辛い目に会わせてくれる人が、私たちを人間にしてくれるものなのです。いい人だけが、私たちを育ててくれるも

多くのことを学び、どれだけ言葉の神から語りかけられたことでしょうか。自らが心揺さぶられ、問い正された言葉には、命があります。その命ある言葉を、一人でも多くの人に届けたいとの思いで、綾子さんは必死に作品を生み出し続けられたのでしょう。

その人生から絞り出された宝石のような言葉を拾い集めて一つの宝石箱に収めたのが、この『三浦綾子366のことば』と言えるでしょう。

こうして、綾子さんが命がけて書き上げて来られた作品が、言葉が、多くの方に伝わることを願って止みません。それは、読む人の人生をどれだけ豊かにすることでしょう。

おわりに本書からこの言葉を紹介してペンを置きます。「言葉は人格の所産である」（『私の赤い手帖から』）

（なかむら・けいこ 俳協所属ナレーター／三浦綾子読書会朗読部門講師）
（四六判・一六〇頁・本体一五〇〇円＋税、日本キリスト教団出版局）

善野碩之助 道子
限定配本発売中！

百歳の総決算
人生の黄昏時に想う

百歳の言行録！ 『時と永遠の相の下に』『コーヘルトの言葉』を読み解き、生きてきた自身の100年を「戦争と平和」という主題で回顧し、人生の黄昏時にヘッセの詩の一節を、イエスの語られた『永遠のいのちに至らせる生きた水』を想う。たゆまぬ学究の思いによって綴られた百歳の言行録。

●四六判・二二六頁・一七〇〇円＋税

近刊案内
田中光三 著
輝け、あなたの誕生日！
私の聖書歳時記 366日

著者の優しさと軽妙な洒落、俳句を交えて神さまからの祝福を誕生日に合わせた聖句と解説を、一人一人に贈る側の語り手としてお届けする待望の書。

●A5判・462頁・予2,800円＋税

A. グリューン 著 村椿嘉信 訳
従順という心の痛い
私たちはすでに従順になっている

勇気、心、開かれた思考を持って、従順とたたかう。従順は破壊的である。従順は、思考を閉い込み、現実を否定する。現実の全体を、権力者のその場しのぎの胆略的な視点を反映するだけのものに、制約したり開いたりすることはできない。

●800円＋税

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
*自費出版の専門出版社*資料・呈

本屋さんを選んだお勧めの本

善隣館書店 佐々木章

『メディアにむしばまれる子どもたち』

田澤雄著作



1,300円+税
教文館

最近、0歳児健診、1歳児健診、2歳児健診の待合室が静かだという。若い母親がわが子に向かって、スマホに組み込まれている絵本のアプリを見せているのだ。0歳〜2歳児健診の部屋は赤ちゃんの泣き声が当然のように華やかではなく、不気味な静けさなのである。

人の肉声が機械音に、目から入る風景がスマホ画面の光の明滅に代わることは赤ちゃんにいい訳がなく、脳の中で大切な働きをする前頭葉の働きが鈍くなり、やがて笑わない赤ちゃんになっていくという。

「見える」「言わせる」「聞かせる」はこの世を生きる処世術のように理解されているが、実は江戸時代の子育ての知恵だったのだとこの本は示唆する。今の時代は色々な

バイブルハウスびぶるすの森 植田雄二

『ママ、もっし自信を』

中川李枝子著



1,200円+税
日経BP社

絵本というジャンルにおいて絶大な人気を誇る『ぐりとぐら』（福音館書店）の作者中川李枝子さんによる自伝エッセイと日経DUALに掲載されていたママたちとのQ&Aが収録されています。

日本一の保育士になりたいと、奮闘する若き保育士中川主任の活躍は、やがて『いやいやえん』や『ぐりとぐら』といった絵本を生み出します。それまでの数々のエピソードにおいても中川さんは、子どもはお母さんが一番好きだ、という事を繰り返します。

後半はママたちとのQ&A。私自身も2児の父として気になる項目はたくさんありましたが、中でも「どんな絵本を一緒に読めばいいですか?」という問いに対する「おかあさんが好きだと思ったもの」は、私にとっては意外な回答でした。わが家では子供が読みたい本を読むのが習慣になっていたので。なぜなのか?是非、手に取って読んでみてください。きっと自分の手元において置きたいと思わずです。

のがたれ流しで入ってくる。テレビをつければ、見なくていいもの、聞かなくていい言葉、言わなくていい言葉が溢れている。大切な子育ての時期に悪いものは見ない、言わない、聞かないという子育ての知恵だったらしい。子どもの脳は回復することが可能である。そのことに気が付いて親がどう対処していくか。この本は、親たちに知ってほしいことが満載である。

子育て危機の時代、大人必読の書として推薦します。

善隣館書店

〒020-0025 盛岡市大沢河原3-2-37

TEL: 019-654-1216 (FAX同)

E-mail: zeninkan_syoten@yahoo.co.jp

URL: <http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/>

『自由への指針』

大嶋重徳著



1,600円+税
教文館

KGK(キリスト者学生会) 総主事の大嶋先生の最新刊です。初めて先生の著書を手にしたのは『おかんとボクの信仰継承』でした。私の母親(オカンと呼びます)とかぶる部分が多くとても楽しく読んだ記憶があります。しかし、今回はテーマ自体がもう少し重たく深くなります。

現代キリスト者の倫理を、「十戒」を通して一戒ずつ丁寧に解説してくださいませ。それが古くはどのように解釈され、現代に至ったのか。共感を示しつつも未来に続く一筋の光を平易な言葉を用いて語られています。あとがきは大嶋先生のお嬢様の一言からスタートします。まさしく、その一言に尽きるのではないかと思えます。キリスト者として生きようとする全ての人に読んで欲しい一冊です。

バイブルハウスびぶるすの森

〒591-8041 大阪府堺市北区東雲東町1-1-16

TEL: 072-2577-0909

FAX: 072-253-6132

E-mail: sakai-ips@bible.or.jp

| 書店名 | 郵便番号 | 住所 | 電話 | ファックス | URL | メール | 郵便振替 |
|-----------------|----------|-------------------------|--------------|--------------|--|------------------------------|---------------|
| 北海道キリスト教書店 | 060-0807 | 札幌市北区北七条西6丁目 | 011-737-1721 | 011-747-5979 | http://www.jp-shop.com | sasaki@jp-shop.com | 02770-2-56520 |
| 善隣館書店 | 020-0025 | 盛岡市大沢川原3-2-37 | 019-654-1216 | 共用 | http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/ | zenrifkan_syoten@yahoo.co.jp | 02350-0-874 |
| 仙台キリスト教書店 | 980-0012 | 仙台市青葉区1-36 教誹センター・I771F | 022-223-2736 | 共用 | | fqcwk524@ybb.ne.jp | 02230-0-31152 |
| 恵泉書房 | 260-0021 | 〒新中郷館522 中郷カシヤセンタービル | 043-238-1224 | 043-247-3072 | | keisen@vesta.ocn.ne.jp | 00120-9-43619 |
| 教文館 | 104-0061 | 東京都中央区銀座4-5-1 | 03-3561-8448 | 03-3563-1288 | http://www.kyobunkwan.co.jp | xbooks@kyobunkwan.co.jp | 00120-2-11357 |
| 聖公書局 | 350-1331 | 埼玉県狭山市新狭山1-5-1 | 042-900-2771 | 042-900-2722 | | seikoshoten@bible.or.jp | |
| アバコ・ブックセンター | 169-0051 | 東京都新宿区西早稲田2-3-18 | 03-3203-4121 | 03-3203-4186 | http://www.avaco.info | avaco@avaco.info | 00130-0-96398 |
| 待農堂 | 167-0053 | 東京都杉並区西荻南3-16-1 | 03-3333-5778 | 03-3333-6378 | http://taisindo-books.jimbo.com/ | taisindo@icom.home.ne.jp | 00110-8-95827 |
| バイブルハウス南青山 | 107-0062 | 東京都港区南青山5-10-2 | 03-6418-5230 | 03-6418-5231 | | biblehouse@bible.or.jp | |
| 横浜キリスト教書店 | 231-0063 | 横浜市中区花咲町3-96 | 045-241-3820 | 045-241-5881 | http://www7.biglobe.ne.jp/~yohatara.cbs/index.html | sksch@mva.biglobe.ne.jp | 00250-4-2512 |
| 清光書店 | 951-8114 | 新潟市宮所通一番町313 | 025-229-0656 | 共用 | | 00560-8-51419 | |
| 静岡聖文舎 | 420-0866 | 静岡市葵区西草深町20-26 | 054-260-6644 | 054-260-5612 | | info@s-seibun.co.jp | 00810-8-26558 |
| 名古屋聖文舎 | 464-0850 | 名古屋市千種区今池5-28-4 | 052-741-2416 | 052-733-2648 | http://homepage3.nifty.com/seibunsta/ | nagoya-seibunsta@nifty.com | 00810-5-14073 |
| 京都ヨルダン社 | 602-0854 | 京都市上京区荒神口通河原町東入ル | 075-211-6675 | 075-211-2834 | http://mbox.kyoto-net.or.jp | kiordan@mbox.kyoto-net.or.jp | 01010-2-594 |
| 大阪キリスト教書店 | 530-0002 | 大阪市北区曽根崎新地2-1-15 | 06-6345-2928 | 06-6345-2187 | http://osakacacts.web.fc2.com/ | ochrbook@river.ocn.ne.jp | 00990-3-43009 |
| バイブルハウスびぶらりの森 | 591-8041 | 堺市北区東雲東町1-1-16 | 072-257-0909 | 072-253-6132 | | sakai-jbs@bible.or.jp | 00960-9-47426 |
| 神戸キリスト教書店 | 650-0021 | 神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F | 078-331-7569 | 078-331-9933 | | | 01150-7-45120 |
| 広島聖文舎 | 730-0841 | 広島市中区舟入町12-7 | 082-208-0022 | 082-208-0177 | | hseibun0951@yahoo.co.jp | 01360-4-1958 |
| 徳島キリスト教書店 | 770-0052 | 徳島市中島田町3-57-1 | 088-633-6335 | 共用 | http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/ | tokushoten@shirt.ocn.ne.jp | 01630-5-37119 |
| 松山キリスト教書店 | 790-0804 | 松山市中一丁目1-23 | 089-921-5519 | 089-921-5413 | http://www.geocities.jp/masujama_1007/mexim | sksch@dokidoki.ne.jp | 01650-1-2120 |
| 北九州キリスト教ブックセンター | 802-0022 | 北九州小倉北区上雷野5-2-18 | 093-967-0321 | 共用 | http://kcbook.net/ | kcbookcenter@ybb.ne.jp | 01780-4-39965 |
| 新生館 | 810-0073 | 福岡市中央区舞鶴2-7-7 | 092-712-6123 | 092-781-5484 | | | 01750-5-10932 |
| キリスト教書店ハレルヤ | 862-0971 | 熊本市大江4-20-23 | 096-372-3503 | 共用 | | | 017304-45044 |
| 沖縄キリスト教書店 | 903-0207 | 中頭郡西原字線777 沖縄キリスト教館内 | 098-943-7221 | 共用 | http://www.okinawacbs.com/ | okinawacbs@yahoo.co.jp | 020308-1283 |

※一般書店関係の方は、日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

■新教出版社

人生を聖書とともに

——リチャード・ボウカムの世界(仮題)

山口希生編

リチャード・ボウカムは、新約聖書学から組織神学、キリスト教倫理にいたる広範な領域で開拓的な業績を上げてきた超人的学者である。本書は、今年古希を迎えて来日する教授への感謝を込めて編まれた献呈論文集。教授の自伝的エッセイを巻頭に配すると共に、その学恩を被った者たちが主要業績を紹介し、応答する。格好のボウカム入門。

四六判・160頁・予価1600円

■日本キリスト教団出版局

クリスマス

ヤン・ピエンコフスキー絵／木原悦子文

「ベツレヘムへ行こう」。羊飼いたちは口々にいきました。そして、マリアとヨセフ、飼い葉桶に横たわる幼子を探しあてたのです。イギリスのすぐれた絵本に対して与えられる、ケイト・グリーナウエイ賞を二度受賞した絵本作家が贈る、主イエス・キリスト降誕ものがたり。

A4判変型・24頁・本体1500円

INFORMATION

近刊情報

信仰生活の手引き 祈り

左近 豊著

旧約聖書は祈りについて何を記しているだろうか。そしてイエス・キリストは祈りについて何を、私たちに教えているだろうか。旧新約聖書に深く学びつつ、神に向けて嘆くことさえ祈りであり、「祈ること、それ自体が救いである」という著者渾身のメッセージを浮き彫りにする。

四六判・160頁・本体1300円

希望の教育へ——子どもと共にいる神

レギーネ・シントラー著 深谷 潤訳

世界を結ぶ膨大な情報や多様な価値観が溢れる時代、排他的不寛容がその裏面を覆う。今を生きる子どもたちが豊かな人生を歩む道はどこにあるのか。祈り、善悪、苦しみ、死など子どもを囲む世界を丁寧に見つめ、ひとつの宗教に根差すことから広がる希望を語る。

四六判・272頁・本体3600円

■教文館

竹森満佐一の説教

——信仰をぶつける言葉

加藤常昭著

「東の竹森満佐一、西の田中剛二」と呼ばれ、日本の講解説教の「型」を作った竹森満佐一の生涯と説教の魅力を、愛弟子であった加藤常昭が解説する。

四六判・304頁・本体2900円

福音と世界

2016年11月号

特集 聖書と映画

寄稿者 服部弘一郎、木谷佳楠、富田正樹、久世そらち、中村吉基

寄稿 「旧約聖書における社会的弱者の保護をめぐって」(月本昭男) / 新連載 「アメリカの教会と神学の今」(吉松純) / 好評連載 「現代神学の冒険」(晋名定道)、聖書素読(金必順)、レヴィナスの時間論(内田樹)、新約釈義(辻学)、南島キリスト教史入門(一色哲)、ほか

寄稿 「旧約聖書における社会的弱者の保護をめぐって」(月本昭男) / 新連載 「アメリカの教会と神学の今」(吉松純) / 好評連載 「現代神学の冒険」(晋名定道)、聖書素読(金必順)、レヴィナスの時間論(内田樹)、新約釈義(辻学)、南島キリスト教史入門(一色哲)、ほか

A5判・本体588円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148
Email: sales@shinkyo-pb.com

編集室から

古い友人から連絡を受けた。「久しぶりに『深い河』を読んだよ」と。

なんて懐かしい書名！ 遠藤周作の、あの最後の小説が刊行されたとき、私は大学二年生、十九歳だった。すぐに読み、深く感動し、彼にすすめた。彼とは同じ学生寮に暮らす、文字通り寝食を共にする仲だった。本と映画の話ばかりしていた私たちだったが、『深い河』についても、どれくらいの長い時間を費やしただろう。

本作品の多くの読者と同様、私たちも、主人公である大津の生き方に心ひかれた。母の信仰を受け継いだ大津は、紆余曲折を経て、フランス・リヨンに渡る。カトリック司祭になるため

に。しかしヨーロッパの土壌で育まれたキリスト教への違和感を、どうしてもぬぐいきれず、ガリラヤの修道院へ移り、さらにインドのガンジス河のほとりへと流れ着く。このインドの地で大津は、夜明け前に起き、一人でミサを捧げた後、町へ出て行く。そして見棄てられ、行き倒れとなった人々を、河へと運ぶ仕事をしている。「(あなたは)と大津は祈った。(背に十字架を負い死の丘をのぼった。その真似を今、やっています)」「『深い河』の研究書にフィリピ書の御言葉が引かれていたのを思い出す。「何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。」

大津はそのように生きた。あの小説に出会ったとき、私たちは実社会を恐る恐る覗き込む学生だったけれど、できれば、大津のように立ち止まったり、後戻りしたりしながらもお、この一本道を歩んでいきたいと願った。あれから二十年。今、あのときの自分に恥じない者であるだろうか。(土肥)

本のひろば 2016年12月号 予告

本・批評と紹介…大嶋重徳著『自由への指針』、富坂キリスト教センター編『原発と宗教』、ティモシー・ラドクリフ著『なぜクリスチャンになるの』、石丸昌彦著『健康への歩みを支える』他

エキキュメンカルな
最新の世界水準



旧約新約聖書1字1典
A・ベルレユング／C・フレイフェル編 山吉智久訳
旧新約聖書を貫く基本的な概念を、カトリック、プロテスタント共同で解説した画期的な試み。信仰の源泉として聖書を読み解くために不可欠な事典。
●A5判・672頁・本体18,000円(2017年2月28日まで 特価本体17,000円)



川村信三
キリシタン大名 高山右近とその時代
●四六判・272頁・本体2,700円

信仰をもつて乱世と対峙し続けた希有な生涯を「時代」と「地理」から多角的に俯瞰し、右近像の新たな解明を試みる。キリシタン研究の第一人者による啓蒙書として、歴史愛好家にもオススメの冊！



船本弘毅
聖書に聴く「生と死」
●四六判・238頁・本体1,900円

いま、「いのち」をどう考え、どのように生きるか。出会いと別れ、自然災害、老いや病魔……。人生の苦難に寄り添いながら聖書を読み、慰めと勇気を与える12篇。入門者に最適。



宮本善樹
教会会計 基礎から実務まで
●A5判・342頁・本体2,500円

会計基準や複式簿記の初歩的な知識から、会計処理の具体例まで、教会会計のすべてを網羅！ 教派の違いを越え、どの教会でも使える待望の手引き。

わたしたちは
どんな死に方をしたいのか？

高度先進医療時代における新たな死の文化の提言
ミヒヤエル・デ・リツダー 島田宗洋ほか訳
25名の事例から現代の救命延命型の医療における負の面と矛盾点を語り、「望ましい死への援助」を提案。尊厳死を考える上で必読。
●四六判・464頁・本体2,800円

旧約新約 聖書神学事典

A・ベルレユング／C・フレイフェル編 山吉智久訳

旧新約聖書を貫く基本的な概念を、カトリック、プロテスタント共同で解説した画期的な試み。信仰の源泉として聖書を読み解くために不可欠な事典。

●A5判・672頁・本体18,000円(2017年2月28日まで 特価本体17,000円)



本のひろば 第七〇六号 二〇一六年十一月号

一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇一六年十月一日発行(毎月一回一日発行)

発行所 東京都新宿区新小川町九一 一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三―三三六〇―六五二一 振替〇〇―一七〇五―一六六七
本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 (株)平河工業社
発行人 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三―三三六〇―五六七〇

定価七八円(税抜七二円)(千70円)
一年分二三〇〇円(送料共)

日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL03-3204-0422 FAX03-3204-0457
e-mail eigyou@bp.uccj.or.jp ホームページ http://bp-uccj.jp 《価格税別》



新刊
絵本

THE FIRST CHRISTMAS クリスマス

ヤン・ピエンコフスキー 絵 木原悦子 文

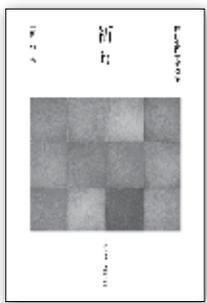


光と影、そして鮮やかな色彩—英国のケイト・グリーナウェイ賞を二度受賞した絵本作家が贈る、イエス・キリストの降誕ものごたがり。

◆245×216mm 上製・24頁・1,500円+税

信仰生活の手引き 祈り 左近 豊

全5巻完結!



◆四六判 並製・160頁・1300円+税

旧新約聖書に深く学びつつ、神への嘆きさえ祈りであり、「祈ること、それ自体が救いである」という著者渾身のメッセージを浮き彫りにする。

最終回
配本

希望の教育へ 子どもと共にいる神

レギーネ・シントラー 深谷 潤 訳



◆四六判 並製・272頁・3600円+税

祈り、善悪、苦しみ、死など子どもを囲む世界を丁寧に見つめ、ひとつの宗教に根差すことから広がる希望を語る。

日本キリスト教団出版局創立50年(1967-2017)記念キャンペーン第1弾

新規ご購入やお買い替えの大チャンス!

日本基督教団年鑑
2017年版限定
特価販売!

通常価格 3,600円(税別)

特別価格 2,600円(税別)

日本基督教団事務局 編
◆A5判 並製・556頁



日本基督教団の
全貌を示す唯一の資料